

“嵐を呼ぶ男” 溝畑 宏

みなさん、こんにちは。

本年1月より観光庁長官を務めております、溝畑宏です。観光は、本年6月に閣議決定された新成長戦略において、7つの成長戦略分野の1つとして位置づけられており、国を挙げて観光立国に取り組むため、前原国土交通大臣を本部長とし各府省副大臣をメンバーとする観光立国推進本部を立ち上げ、外客誘致促進・休暇分散化・関係省庁連携を3つの柱に検討を進めているところです。特に、訪日外国人旅行者数については、従前の目標を前倒し・上乘せし、「2016年までに2,000万人、2019年までに2,500万人、将来的には3,000万人」という新たな目標が設定されたところです。国・地方ともに財政状況が大変厳しい中で、観光は財政出動なき地域活性化策として、その重要性が極めて注目されているところであり、このような時期に、この重責を与えられたことは、私にとって天命であると受け止めています。

私は、旧自治省（現総務省）に入省後、長く大分県において地域づくりに携わってきました。平松守彦知事（当時）のご指導の下で取り組んだ一村一品運動では、「グローバルに考えローカルに行動せよ」を基本理念に、その地域にしかない特産品をブランド化して世界へ発信していくことに注力しました。また、全学生の過半数を留学生が占める立命館アジア太平洋大学の誘致、2002年FIFAワールドカップの開催誘致等、地方都市の個性を活かして世界へ通用するプロジェクトを通じて、大分を元気にすることに尽力したつもりです。そして、県民、企業、行政の三位一体で立ち上

げた、地域密着型のプロサッカーチーム・大分トリニータは、発足時は観客わずか3人という状況からスタートしたが、熱意溢れる県民に支えられ、1試合平均2万人のサポーターが集まるチームにまで成長し、2003年にJリーグ1部昇格、そして2008年にはナビスコカップ優勝を果たすことができました。まさに、ゼロからスタートしたチームが、地域の力で日本一に上り詰めたと言えると思います。

振り返れば、私の大分での経験は、まさに観光の原点であったと言えます。観光の語源は、中国の古典・易経の「国の光を観るは、もって王たるの賓によろし」であると言われています。すなわち、地域の人々が誇りを持つことができるような、その土地ならではの「光」を磨き、その「光」を示すことにより地域が輝くこと、そして、訪れる人々がその「光」を心を込めて観ることこそが、「観光」のエッセンスなのです。

わが国は四季折々の豊かな自然・風土、美しい景観、多様な歴史・文化等を数多く有しており、世界的にみても観光のポテンシャルは極めて高いものがあります。食文化、伝統芸能、産業、環境、スポーツ、医療、ファッション等あらゆるものが観光資源となる可能性を秘めており、地域のブランド力を向上させる最も有効な手段であると言えます。そして、このブランド化のプロセスは、地域住民の主体的な参加と共生によって生み出されるものであり、地方自治体には、住民・企業等の関係者の協働を取り持つプロデューサーとしての

観光庁長官

みぞ はた ひろし
溝 畑 宏



(photo by Yamamoto Raita)

役割が求められます。地域経済・地方財政が厳しいこの時期だからこそ、いたずらに外的要因を流入させるのではなく、目の前にある観光資源の価値を掘り起こし、それを地域づくりという形でブランド化していくことこそが地域活性化の切り札であり、観光こそが地域振興の柱となると確信しています。

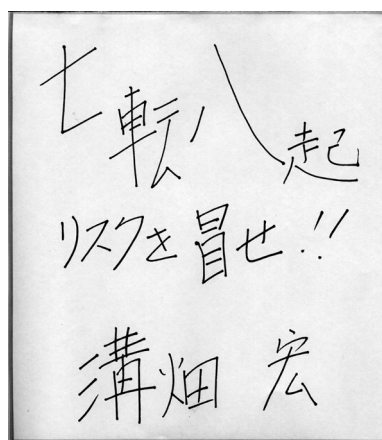
私は、大分トリニータの社長を辞してから、本年1月に観光庁長官に就任した際、改めて多くのことにチャレンジしようと決め、「七転八起」という言葉を選びました。今の日本や若者に対して残念に思うのは、とにかくマイナス思考で積極性が欠落していることです。私はよく、「ペットと野良犬」という表現を用いるのですが、ペットとは自分をさらけ出さず、社会や組織に迎合してしまう人、野良犬は何も保障されていないが、成功を信じて自分で道を切り開いていく人のことです。チャレンジ精神のある人間が少ない今の日本だからこそ、ペットよりも野良犬のほうが成功できる可能性がある、と思っています。そこにはもちろんリスクが伴います。でも、それがあからこそ燃える。成功率なんて3割でもいい、10割を目指すから今の日本人は一步を踏み出せないだけじゃないかと思います。迷ったら動く、物事に全力でぶつかっていけば、必ず自分を認めてくれる人は現れます。

私は、これまでの経験で培った七転び八起きのチャレンジ精神で、官民を問わず多くの関係の方々とのネットワークを最大限活用し、「開かれた

観光庁」という合言葉の下、観光庁職員とチーム一丸となって観光立国実現に邁進していく所存です。私自身もプレイングマネージャーとして現場主義、フットワーク、スピード感、ネットワーク作りをスローガンに、ジャパニーズセールスマンとして、全国各地、世界各国を飛び回っていきたいと考えています。

観光をエンジンターボとして、地域を元気に、日本を元気にしていくために、みなさん、ともに力を合わせていこうではありませんか。観光立国、さらには観光大国の実現に向けて、日本国民1億2千万人・オールジャパンで突き進んでいきましょう。観光をエンジンターボとして日本を元気にするために、今後も観光庁へのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ぜひ今後の観光政策の動きにご注目ください。



座右の銘